

じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺

至徳の風
衆禍の波
静かに
転ず

教行信証



報恩講へご参詣下さい

浄慶寺住職 大塚 展彦

日頃よりご門徒の皆さまには大変お世話になっております。永く閉じられていました山門が再建されました。ご本尊を奉る本堂へ続く参道では、ご門徒の和やかなお顔が満ち境内を一層明るく照らして、いただいております。おおよそ100年ぶりの大事業につきましては、困難な時代状況の中に、御懇念を賜りまして誠に有難うございます。

お一人おひとりのお力添えが、宗祖親鸞聖人の教えをいただき、ご先祖様方を大切に敬い、感謝を捧げる場を荘厳する事業として無事、円成しましたことを深く御礼申し上げます。

さて、寺院の建築様式は様々にありますが、現在の形式に整えられたのは、江戸時代からです。

寺社奉行の細かな規則が定められる前は、多くは、草庵でした。茨城県にある「大山の草庵」「稲田の草庵」などは、親鸞聖人がご門徒と共に道を求め、田畑を耕し、お子様をお育てになった場所です。

その頃からおおよそ800年、本堂の様式、伽藍の配置など様々な変遷がありましたが、浄土真宗の教えに基づく寺院として特徴的なものがあります。それは、「結界」が無いという事です。

「結界」とは、修行の妨げとされるものや災難の侵入を阻むためのものです。寺院だけでなく近世まで富士山山頂へは女性は立ち入ることが出来ませんでした。全国の名刹古刹にお参りしますと山門には、結界を示す大きな横木があります。また、禅宗の寺院には「不許葷酒入山門」と書かれた石があります。親鸞聖人は、「家庭生活における仏道修行」を積尊、聖徳太子、法然上人の教えをもとに実践された方です。生きとし生ける一切衆生の救済を願う大乘の仏道は、「穢れ」や「性別」についての抑圧的差別的な発想を否定されました。

浄慶寺の山門をよくご覧いただきますと、足を跨いで超えなければならないような横木や巨石はありません。春夏秋冬を通してぜひ山門からご参詣下さい。そして、「本願には善悪浄穢なき」「弥陀の本願には老少善悪のひとをえらばれず」といった分かりやすい言葉で阿弥陀如来の慈悲行を教えて下さる親鸞聖人の教えを共に聴聞しましょう。

報恩講では、親鸞聖人のご生涯を絵巻物にたずね学びます。ぜひ、ご参詣下さい。



お寺を訪ねて

— 萬福寺を訪問しました —

新たな試みとして、浄慶寺が所属しています筑前西組を中心に他の寺院をお訪ねして、その寺の特色などを、『じょうけい』の記事に取り上げてみました。今回は、手始めとして浄慶寺の坊守のお里であります所の萬福寺を、お訪ねしました。

萬福寺は、中央区鳥飼にあります。大きな通りに面しており、都市高速の百道インターから近く非常に交通の便が良い場所にあります。

萬福寺の沿革が、寺名門柱の裏に以下の文面が刻まれておりました。 **本堂正面**

寛永年間、當山開祖高田正左工門則清師は、欣求浄土の信篤く所感ありて世を厭い出家上洛し宣如上人より得度し、僧儀を修して後、帰国し萬福寺を創建せり
其後、戦災のため堂宗宝物等焼失せしとも歴代住職及第十三世岱雲師と門信徒一体の法燈相続の尽力により今に至る

萬福寺は、元は天台宗であったのが、改宗されて浄土真宗になったそうです。約400年経て継承された歴史のあるお寺です。

現在の住職は第十六代でありまして、今年の5月に継承法要が執り行われたところです。

本堂は、再建がなったばかりで、落慶法要も継承法要と一緒に5月に執り行われました。約60年ぶりの本堂再建で、再建計画は平成21年から始められて10年経過しての完成との事です。門徒会館、納骨堂も併設されており、身障者対策もなされた機能的な寺院といった佇まいであり、特に、納骨堂は永代供養壇が設けられており、これからの時代に即したものと受け止められました。また、お寺での葬儀の希望者も多いそうで、その対応も可能になる造り込みになっておりました。

前住職は、平成29年に命終され、この本堂の完成を見ることは叶いませんでしたが、前住職の強い思い入れのあったところの博多塀が、通りに面して、趣きのある姿で存在しています。

高田住職からのひとこ

このたびは萬福寺へご訪問いただき、ありがとうございます。2年前に第16代住職に就任しました高田雅量(たかたまさかず)と申します。筑前西組の住職の中では最年少の若輩者でございます。浄慶寺様と当寺はお寺が近く、また私の3番目の姉が入寺し、大変深いご縁をいただいております。これからもお互いのお寺とご門徒が助け合い、様々な行事や交流会を協力して催したいと存じますので、その際は何卒よろしくお願い致します。



博多塀

※訪問当日対応頂きました高田住職、前坊守及び佐藤責任役員の皆様には忙しいところありがとうございます。御座いました。感謝申し上げます。

真宗（大谷派・東本願寺）への導き

《第九回》

七高僧(ひちこうそう) (その二)



前回は、七高僧の内、龍樹菩薩、天親菩薩、曇鸞大師について、記しました。今回は、残りの四高僧について、親鸞聖人が詠まれた『正信偈』に照らし合わせて紹介します。

●道綽禪師(どうしゃくぜんじ)・562年～645年

道綽禪師は、中国山西省で562年に誕生されました。それは曇鸞大師が往生されてより20年後のことです。道綽禪師は、聖道門(自力)の教えによってさとる(証)のは難しく、ただ浄土門(他力)の教えによってのみ、さとりに至ることができる(通入)ことを明にされました。

この事は、正信偈の中に以下の如く表せられています。

どうしゃくけつしょうどうなんしょう 唯明浄土可通入

(意訳)
道綽禪師は、聖道門では覚ることが困難であることを明らかにして、ただ浄土門のみが通りやすいことを明らかにされた。

親鸞聖人が道綽禪師を讃えて詠まれた和讃です。

ほんじ どうしゃくぜんじ しょうどう まんぎょう
本師道綽禪師は 聖道万行さしおきて

ゆい う じょうど いちもん つうにゆう
唯有浄土一門を 通入すべきみちととく

『高僧和讃道綽和讃第1首』

●善導大師(ぜんどうだいし)613年～681年

善導大師は、613年(隋の時代)に中国で生まれ、681年、69歳で往生されました。道綽禪師を訪ねて浄土の教えを学び、その中でも特に『観経(かんぎょう)』を深く学ばれました。大師は、誰もが称えられ「称名の念仏」こそが往生の道であると教えられました。力のない愚かな凡夫が救いとられる教えこそが、釈尊のご本意であることを明らかにされたのでした。

親鸞聖人はその功績を正信偈の中で善導ひとり 仏の正意を明らかにせり、と讃えられました。

ぜんどう ぶつみょうぶつしょうい
善導独明仏正意

●源信和尚(げんじんかしょう)942年～1017年

大和国(奈良県)で誕生されました。『往生要集(おうじょうようしゅう)』という書物を著わされました。これは、仏教の帰するところは、結局は念仏往生の教えしないことを明らかにされたものでした。これが浄土教の源流となり、後に法然上人による浄土宗の開宗に大きな影響を与えたのです。

げんしん こうかい いちだいきょう へんき あんにょうかん いっさい
源信広開一代教 偏帰安養勸一切

(意訳)
源信僧都は、釈尊一代の教えを広く開いて、自らひとえに弥陀の浄土に帰依し、また一切の人びとにも勧められた。

●源空上人(げんくうしょうにん)1133年～1212年

源空上人は法然上人の名で親しまれています。平安時代の末、美作の国(岡山県)のお生まれです。阿弥陀仏の本願が、善悪にかかわらず、悩み多いすべての凡夫を憐れんで発されている慈愛であること、そして凡夫は、本願に素直に従うしかないことを説き示されたのが、釈尊の慈愛であることを、法然上人は明らかにされたのです。

親鸞聖人は正信偈の中に、以下の様に記して上人の徳を称賛されています。

ほんじ げんくうみょうぶつきょう れんみんぜんなくほんふにん
本師源空明仏経 憐愍善悪凡夫人
しんしゅうきょうしゅうこうへんしゅう せんじやくほんがんぐあくせ
真宗教証興片州 選択本願弘悪世

(意訳)
私たちの祖師、源空上人は、釈尊の教えの本意を明らかにされ、善悪一切の凡夫を哀れくださり、真宗の教えと証を片隅の国、日本に興された。選択本願の念仏をこの悪世に弘められた。

わが師法然上人がこの世に現れなかったら、

浄土の真宗の教えを、庶民に届けることもできなかつたと、述べられています。



行事予定

- 報恩講準備(おみがき) 11月11日(月)
10時から本堂にて
(報恩講を前に本堂の仏具などを磨く奉仕活動です)
- 報恩講 11月16日(土)・17日(日)
両日とも13時30分から
- 年末本堂開放 12月28日(土)～30日(月)
- 修正会 令和2年1月5日(日)
13時30分から

文芸欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

虫喰いの記憶を友と笑い合う

女坂気負わず歩む土踏まず

風の私語所詮わたしも傍観者

父という温みを知らず父を詠む

川柳

山口由利子

坊守のついで

皆様、いかがお過ごしですか？

さて、ご法事についてご連絡・お問い合わせをいただく時に

「命日の後になってはいけないのですよね？」とご質問をいただく事があります。

「法事・マナー」などの言葉で検索しますと「時期は、早めることは許されますが、

遅らせることのないように注意する必要があります。死者の霊がよい方向へ行けますように、それぞれの関所をお願いするのがその目的です。」といった回答例が出ます。

しかし、考えてみますと、ご逝去された大切な方が

「関所を通過しなければ成仏できない霊」なのではないでしょうか？

正解はないと思いますが、生前には分らなかった、伝えられなかった感謝の心を

見つめ直す時間と場所が浄土真宗の法事の目的ではないかと感じています。

法事をお勤めさせていただく度に、皆さまとたずねて参りたいと感じております。



編集後記



早いもので今年も、報恩講を迎える時期になってきました。最近時間は急いで進んでいる感じがです。今の時を大切にしたいものです。じょうけいについての意見も聞かせて下さい。

じょうけい 第10号

〈発行〉

真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
浄慶寺門徒会 川嶋正實

〒810-0063 福岡市中央区唐人町3-10-49

〈編集〉

浄慶寺寺報編集担当 塩川大一

本堂で通夜・葬儀ができます

お寺本堂での通夜・葬儀を希望する場合は以下の手順です。

① 下記の何れかの葬儀社を選択して、『浄慶寺の門徒です。

本堂でお通夜・葬儀を依頼します』とお伝え下さい。

◇みんせい葬祭・福岡市博多区大博町(担当者:竹内)

092-271-7422又は090-1342-0006(24時間受付)

◇お葬式のあおやぎ・福岡市早良区飯倉

(担当者:龍相=りゅうそう)092-865-4400(24時間受付)

②お寺(住職)に、ご一報をお願いします。

(住職携帯電話:090-2318-3268)

※本堂でのお通夜の時間は、午後10時までと、させていただきます。

※お寺での宿泊は出来ませんので、ご了承ください。